



温故知新  
Review the Old and Acquire the New  
2013-2014 第 2610 地区テーマ

# Governor's Monthly Letter



## 「温故知新」



能登では7月初旬から10月中旬までの間に、百数十を超える地区でキリコ祭りが行われます。

新年度を迎える本年7月からの1年間は、ガバナー年度として私にとって特別な年であり、ロータリーへの新たな挑戦の幕開けです。いま、緊張感と責任の重さをひしひしと感じています。

国際ロータリーは、200を超す国と地域の参加により構成されています。会員である私たちロータリアンは、ロータリー100余年の歴史で培われた「ロータリーの中核的価値観（奉仕・親睦・多様性・高潔性・リーダーシップ）」を精神的土台として活動します。

世界中のロータリアンが取り組む国際親善・国際交流は、平和の源です。世界各地で何が起きようと左右されることなく、奉仕活動を通して平和に邁進しています。このことがロータリアン一人ひとりの行動に、誇りと自信をもたらすものと信じています。

ロンD・パートンRI(国際ロータリー)会長は2013年国際協議会の講演で「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」と提唱されました。非常に庶民的な響きを持つテーマであり、人々の人生に重きをおいた大変深みのある内容で感銘を受けました。

私の地区運営方針は「温故知新」です。これまで諸先輩方から「過去の歴史に学び知り、新たなものを見出すことが重要である」と教えられました。今年5月、広島で開催された「ロータリー世界フォーラム」に参加した折、世界各国から訪れた青少年たちによる「平和のためにどうすべきか」という問いかけは、非常に新鮮で人間性を感じました。この時の平和宣言にある「私たちは、過去から学び得た知識を指針とし、未来に向かって進みます」という言葉は、まさに「温故知新」ではないでしょうか。

地区運営方針には「ロータリアン一人ひとりが積極的にロータリー活動に参加する」ことも掲げており、ロータリアン全員がリーダーシップを発揮できる環境づくりを目指しています。

本年度から「ロータリー財団地区補助金制度」が始まり、地区内の各クラブが地域への柔軟な対応によって効果的に活用することで、大きな波及効果が期待されるでしょう。2016年開催の日台ロータリー親善会議に向けての準備も含め、この1年間、ご支援とご協力をお願いします。

2013.7  
VOL. 1

ガバナー 湯浅外志男